

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176100147		
法人名	株式会社 美唄環境センター		
事業所名	グループホーム「アルメリア」西ユニット		
所在地	北海道美唄市東5条南4丁目3番9号		
自己評価作成日	平成27年11月29日	評価結果市町村受理日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0176100147-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設後12年となりますが、アルメリアの花言葉の「思いやり」の心を職員全員が引継ぎ、日々の仕事にあたっています。
住宅地で「遊縁通り」公園に面した立地条件も良く、採光に配慮した建物は、入居されている方にも安心感を与える暮らしやすいホームとなっています。
ホームに面した道路は小中学校の通学路となっており、毎日子供たちの元気な姿が入居者にも新鮮に感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームアルメリアは、「人を思いやり・慈しむ心を大切に」との思いが施設名に込められている。個性を尊重した穏やかな暮らしを理念とし、家庭的で落ち着いた生活を提供するため、ゆったりとした住空間の中で、利用者と職員との信頼関係を大切にしている。スケジュールを押し付けず利用者一人ひとりの思いを汲み取り、それぞれの生活リズムで過ごせるよう支援している。事業所は、JR美唄駅から10分程度の住宅街にあり、ゆっくりと散歩できる遊歩道に面するなど周辺環境に恵まれている。建物内には中央に多目的に活用できる広いロビーがあり、オカリナやマンドリンの演奏、生け花教室などのボランティアが訪れ、利用者の楽しみとなっている。経験豊かな職員も多く、利用者にも家族にもアルメリアで暮らせて良かったと思ってもらえるよう、職員一丸となって日々努力している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示しており、ケアに結びつくようにしている	「利用者の生活リズムと個性を尊重し、穏やかな暮らしを提供します」との理念を玄関などに掲示している。職員は内容を理解し、実直に日々のケアを実践している。判断に迷う事例が出た時は理念に立ち戻って判断している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶し、交流を図っている	町内会の役員を担い、清掃や親睦会に参加している。また、近くの養護学校の生徒による手作り作品の贈呈や、オカリナ演奏の訪問、毎月の生け花教室の開催など、ボランティアや訪れる人たちとの交流を図っている。今後、ホームのロビーを地域の高齢者へ開放できるよう検討するなど、新たな関係づくりにも意欲的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の代表を交え運営推進委員会を行なっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	連絡会議を通して運営推進委員会の内容をユニットに伝えている	運営推進会議には町内会や民生委員、地域包括支援センターなどから参加・協力を得ており、職員も出席している。「グループホームの役割と課題について」などの議題で、各委員から意見や提言を受けている。	運営推進会議では、事業所の現況報告や情報交換をしている。また、介護保険法改正など利用者・家族に直接関わる資料も作成している。今後は参加できない家族に、議事録や資料を送付することを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問で担当者と連携を密に取っている	市主催のケア会議や研修に参加したり、事業所便りを届けるなどしている。また、ケア加算など事業所の運営に関することには、丁寧な助言や提案を得ている。事業所を自然災害時の避難場所とするよう話し合うなど協力関係も築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	連絡会議や日々の申し送りにおいて常に身体拘束について話し合いを持っている	事業所の身体拘束に関するマニュアルを整備し、外部研修に出席した職員から伝達講習や申し送りなどで理解と実践につなげている。トイレ誘導時などに、職員がかける言葉や振る舞いで利用者が不安にならないケアを重視し、身体拘束のリスクを回避している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアマネなどが外部の研修に参加し内容をスタッフに伝えている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の成年後見制度の研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をし家族に理解してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の希望を聞きホームに伝えている	家族の来訪時には職員が玄関で出迎え、家族が居室に行く前に、利用者の状況を報告するなど積極的に話す機会を作っている。家族からお風呂の温度や「お菓子を食べさせて」などの希望があった際には、連絡ノートに記録・共有し支援に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡会議を開き話し合いの機会を設けている	運営会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、運営者は毎日のようにホームを訪れており、職員が意見などを言いやすい関係を築いている。夜勤の勤務時間の変更など、職員の意見や提案が反映されやすい職場環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員相互の資質や能力に応じた対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修への参加を行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協会に入り他施設とも情報交換を行なっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を通し利用者のニーズを知るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を通し家族が困っていることや希望を聞き出すようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時のカウンセリングでサービスが適当かどうか見極めアドバイスをしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーションを一緒に行うことで関係を築いていく		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や電話で本人の状態を伝えて相談し共に支えていく人間関係を築いていく		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容や美容室などに外出していただく事や、知人や町内の方の面会の場を提供している	友人や知人が来訪した際には、お茶を出すなどゆっくりくつろげるよう配慮している。また、以前から利用していた美容室に事業所まで送迎してもらうなど、これまでの人間関係や馴染みの場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し食卓の席を決めたりソファを集いの場にしていただき、レクリエーションも一緒に行えるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や電話で家族の相談に応じる等関係継続を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からもこれまでの本人の暮らし方や様子を聞き暮らしがより良い物になるよう意見交換をしている	個性を大切にし、生活リズムを保つため、利用者との日常会話から具体的な意向を汲み取るようにしている。意向の把握が困難な場合は表情やパターンから読み取るよう努め、連絡ノートを活用し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞きプラン反映に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントシートを活用し把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り時の話し合いモニタリングと面会時の家族の希望でプランに反映させている	家族の意向も尊重し、ミーティングなどで職員から各利用者の状態やケアの状況を聞き、それを基に計画作成担当者がサービス計画を作成している。通常は6ヶ月毎に見直しをしているが、身体状況の変化が著しい場合は随時見直ししている。	業務日誌には、利用者の生活の様子や健康状態、職員の気づきなどが記載されているが、ポイントのみの記録となっている。介護計画の目標と連動して記載できる仕組みを検討することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項を記録しプランに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や本人の状況に応じて補助具を検討したりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れをして地域の方と暮らしを充実させている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じて、かかりつけ医を決めている、また、往診の利用で医師と介護者の情報の共有を図っている	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。協力医療機関の医師による月2回の往診と精神科医による月4回の往診もある。週2回非常勤看護師が健康管理を行っており、利用者の体調についていつでも電話で相談できる体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師、訪問看護師に状況を伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書の利用や、本人の状況を電話を使い病院と情報の共有を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時より家族に重度化した場合の相談をしており理解してもらっている	重度化や終末期の対応について、事業所ができるケアについて丁寧に説明を行い、終末期ケアの同意書を交わす仕組みになっている。看取り支援に移行する際は主治医と家族と連携し、家族が安心できるよう対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変事故などについては、迅速かつ効果的な対応が率直にできるように協議訓練を重ねている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に地域の協力が得られるように電話番号や住所を掲示している	夜間を想定した避難訓練を消防署の協力を得て行っている。地域住民への連絡網を整備し、ポータブルストーブやコンロ、発電機などを用意している。災害への意識向上を図るため、職員が防火管理者講習を受講することを検討している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時にノック、本人が不快にならないような言葉使いに注意している	トイレへの誘導は、声かけを工夫しさりげなくきっかけを作るとともに、他の利用者に気づかれないようプライバシーに配慮した支援を行っている。また、日々の暮らしの中で無理な押し付けにならないよう、利用者一人ひとりの生活リズムと個性を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや質問の仕方を考慮し、自己選択、自己決定ができるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のその時の体調を考え無理とならないように声掛けしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き促し声掛けしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、食器の片付けなど一緒にこなしているほか、メニューの希望を聞いている	メニューは利用者に希望を聞いて決めており、利用者と一緒に買い物をしている。職員が見守りながら、刻む、皮をむく、配膳するなど、利用者の意志や気持ちを引き出す場面作りをしている。職員と共に会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に応じて量や大きさを工夫し、飲み物も飽きないように種類を変えたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の促しや見守りで洗浄してもらっている、必要な方には昼食後のうがいなどの促しを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人が気にされぬように工夫し、パットの交換や排せつの促し、定時の誘導を行っている	職員間で排泄パターンを把握し、薬の調整なども行いながらトイレでの排泄を支援している。また、夜間は衛生用品を使用しても日中は下着を着用し、家族と話し合いながら、こまめに声かけしトイレでの排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取と運動を促し、スムーズに排便できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の希望の時間、希望の日を聞き配慮している入浴を嫌う方にも声掛けに工夫して楽しめるようにしている	午後3時過ぎから入浴できるよう準備し、3日に一度は入浴できるよう支援している。冬場は脱衣場をヒーターで暖め、入浴剤を入れて温泉気分を演出するなど、ゆったりと入浴を楽しめるよう取り組んでいる。利用者は入浴後のジュースを楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力、体調に合わせて休息できるように声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋を利用し理解している、症状の変化の確認に努め、必要に応じて看護師、病院に連絡し相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできることに、得意なことを考慮し作業やレクリエーションを行なっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮し買い物、散歩、ドライブなどに出かけている	日常的には、スーパーへの買い物やホーム前にある遊縁通り公園の散策や菜園の観察、中庭での日光浴、植物の手入れなどで季節を感じている。外出行事では東明公園へ花見に行ったり、宮島沼に渡り鳥を見に行くなどして気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と個人の能力に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話ができる、書いた手紙の投かん等を支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーなどでODをかけ音楽を聞いたり、歌をうたってもらっている、植木鉢を置いて手入れや眺めてもらっている	広々とした開放感のあるロビーは多目的に使用でき、訪れるボランティアや実習生、地域住民との繋がりを生み出している。居間の一角にある畳敷きスペースには、クリスマスツリーなどが飾られ潤いのある空間となっている。建物全体が適温・適湿に保たれ、清掃も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置しテレビを見たり会話ができるようにし、食卓席は相性を考慮し席を決め、談話できるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や身の回り品を使用してもらい仏壇や家族やペットの写真を置き居心地良く過ごせる工夫をしている	10畳ある居室には、テレビや冷蔵庫、収納付きベッド、クローゼットが設置されている。入居時には、ひじ付きの安定感のある椅子を利用者に用意してもらい、安全で心地良い居室を職員と共に作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや食堂に大きな看板をつける、自室に名前を付けて混乱しないようにしている		